

ワクチン情報文書

DTaP (ジフテリア、破傷風、百日咳) ワクチン: 知っておくべきこと

Many Vaccine Information Statements are available in Japanese and other languages. See www.immunize.org/vis

多くのワクチン情報の説明が、日本語やその他の言語で利用することができます。
www.immunize.org/visを見てください。

1. ワクチン接種を受ける理由は?

DTaPワクチンはジフテリア、破傷風、および百日咳を予防できます。

ジフテリアと百日咳は人から人へと伝染します。破傷風は、切り傷や傷口から体内に侵入します。

- **ジフテリア (DIPHTHERIA, D)** は、呼吸困難、心不全、麻痺、または死につながる可能性があります。
- **破傷風 (TETANUS, T)** は痛みを伴う筋肉のこわばりを引き起こします。破傷風により、口が開きにくくなったり、ものを飲み込みにくくなったり、呼吸が困難になったりなど深刻な健康問題を引き起こす可能性があるほか、死に至る可能性があります。
- **百日咳 (PERTUSSIS, aP)** は、制御不能な激しい咳を引き起こし、呼吸や飲食が困難になることがあります。百日咳は、特に乳幼児において非常に重篤になる可能性があり、肺炎、けいれん、脳の損傷を引き起こしたり、死に至ることもあります。10代や成人では、体重減少、膀胱の制御不能、気絶のほか、激しい咳による肋骨の骨折などを引き起こすことがあります。

2. DTaP ワクチン

DTaPは7歳未満の小児にのみ接種されます。7歳以上の小児、青年および成人の方には、破傷風、ジフテリア、百日咳 (TdapとTd) に対して異なるワクチンがあります。

小児はDTaPワクチンの接種を5回受け、通常、以下の月齢/年齢で受けることが推奨されています。

- 2か月
- 4か月
- 6か月
- 15～18か月
- 4～6歳

DTaPは、単独のワクチンとして、または混合ワクチン (複数のワクチンを1回の注射で接種するワクチンの一種) の一部として接種することができます。

DTaPは他のワクチンと同時に接種してもかまいません。

3. 担当の医療従事者にご相談ください

以下のような方がワクチンを受ける場合には、担当するワクチン接種を行う医療従事者にご相談ください。

- 前回のジフテリア、破傷風、百日咳に対するワクチンの接種後にアレルギー反応が出たことがある、または重篤な命を脅かすほどのアレルギーがある
- 前回のあらゆる種類の百日咳ワクチン (DTPまたはDTaP) の接種後7日以内に、昏睡状態または長期間にわたる発作が出た
- 発作またはその他の神経系の問題がある
- ギランバレー症候群 (Guillain-Barré Syndrome、GBSとも呼ばれる) にかかったことがある
- 前回の破傷風またはジフテリアに対するワクチンの接種後に重度の痛みまたは腫れがあった

場合によっては、担当の医療従事者がお子さまのDTaPの接種を次回の来院まで延期するように判断する場合があります。

風邪などの軽い病気にかかっている場合でも、お子さまは予防接種を受けることができます。お子さまの病気が中程度または重度の場合は、回復してからDTaPワクチンを接種するほうがよいでしょう。

詳細については、担当の医療従事者にお尋ねください。



U.S. Department of
Health and Human Services
Centers for Disease
Control and Prevention

4. ワクチン反応のリスク

- DTaPワクチン接種後には、注射した部位の痛みや腫れ、発熱、痲癩、疲労感、食欲不振、嘔吐などの反応がみられることがあります。
- DTaPワクチン接種後に起こるそれ以外のより深刻な反応には、発作、3時間以上泣き止まない状態、または高熱(40.5°C [105°F]以上)などがありますが、はるかに少ない頻度で起こります。まれに、予防接種の後に腕や脚全体が腫れることがあります。特に、4回目または5回目の接種を受けた年長の小児で見られます。

どんな医薬品でもそうであるように、ワクチン接種により重度のアレルギー反応や、その他の重篤な傷害や死亡が起こる可能性はごくわずかにあります。

5. 重度の問題が起きたら?

アレルギー反応は、ワクチン接種を受けたクリニックからの帰宅時に生じることがあります。重度のアレルギー反応の症状(蕁麻疹、顔やのどの腫れ、息苦しさ、速い鼓動、目まい、倦怠感)があった場合は、**9-1-1**に電話し、最寄りの病院を受診してください。

気にかかる他の症状がある場合は、担当の医療従事者にお電話ください。

有害反応は、Vaccine Adverse Event Reporting System (ワクチン有害事象報告システム:VAERS)に報告する必要があります。通常、担当の医療従事者がこの報告書を提出しますが、あなたもご自身で提出することができます。VAERSのウェブサイトにはアクセスいただくか www.vaers.hhs.gov、**1-800-822-7967**までお電話ください。VAERSは反応の報告のみを目的としているため、VAERSのスタッフは医学的な助言は行いません。

6. 全米予防接種傷害補償プログラム

National Vaccine Injury Compensation Program (全米予防接種傷害補償プログラム:VICP)は連邦プログラムであり、特定のワクチン接種により傷害を受けた可能性のある方々に補償するため設立されました。ワクチン接種による傷害または死亡の疑いに関する補償請求には提出期限があり、2年という短期間の場合があります。VICPのウェブサイト www.hrsa.gov/vaccinecompensation をご覧になるか、**1-800-338-2382**までお電話いただき、プログラムの詳細および補償請求の方法についてご相談ください。

7. 詳しい情報を知るには?

- 担当の医療従事者にお尋ねください。
- お住まいの地域または州の保健局にお電話ください。
- ワクチンの添付文書および追加情報については、Food and Drug Administration (米国食品医薬品局:FDA)のウェブサイト www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/vaccines をご覧ください。
- Centers for Disease Control and Prevention (疾病管理予防センター: CDC)にお問い合わせください。
 - 電話 **1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)** または
 - CDCのウェブサイト www.cdc.gov/vaccines をご覧ください。

Japanese translation provided by Immunize.org

